

コメディリリック第6回「ラブラブチャレンジャー」

「ミスーDの父」

登場人物

田中

畑中タメ

藤田

野彦

高木

ペイリー・チャイルド

※田中、高木、板付き

【L・明転】

後ろ向きに座る田中

※藤田、登場

藤田 「田中さん！珍しいですね！」

高木 「馬鹿！やめろ」

藤田 「え…：すいません。屋上に田中さんが来るの珍しいなって」

高木 「今はそつとしといてやれ」

藤田 「え、田中さん…：何かあったんですか？」

高木 「田中さんの娘さんが…：ミスIDに出場して、ひっちゃかめっちゃかかしちゃったみたいで」

藤田 「え、ミスID？」

高木 「そう。ミスID」

藤田 「ミスIDってなんですか？」

高木 「ミスIDってのはな…」

「M・玉城ティナーC」

モニター①

高木 「講談社が主催する女性アイドルオーディ

イションな」

藤田 「へー」

モニター②

高木 「ミスID実行委員長は『妄撮』シリーズのプロデューサー・「妄撮P」こと小林さん。めっちゃうちや偉いんだよ」

藤田 「へー」

モニター③

高木 「小林さんによると、ミスID2015まではIDの意味は「ミスID（アイドル）」の意味だったが、ミスID2016以降は「アイデンティティ」と「アイドル」。「私」と「Diversity」（多様性）を表すと再定義している、と」

「難しいですね…」

モニター④

高木 「要するにただ、可愛いだけじゃない部分で女性として評価しているこうぜ、みたいな感じ。この定義によって、ただの美

少女コンテストとは一線を画す風潮が生まれたわけ。強めのアイデンティティ出したもん勝ち、みたいなな。まあ、後はググってくれや」

「M・FO」

藤田 「で、そのミスIDで田中さんの娘さんは何をしたんですか？」

肩を震わせて膝を叩く田中

高木 「田中さんの娘さんな、審査員の前でグロ吐いたんだよ」

「え？」

高木 「口に指ツッコんでな、それで「LOVE & PEACE」って文字を書いた」

吐息をこぼしながら頭を抱える田中

藤田 「めちやくちやですね」

高木 「それでファイナリストに残っちゃって」

藤田 「ファイナリストに残ったんですか？」

高木 「グロ吐いて字を書くって中々のアイデンティティだろ？」

藤田 「僕には分かんないですけど…」

高木 「でな、ファイナリストに残ると、自己アピール動画を公式HPに掲載することができるんだけど、そこでもまたやっちゃってさ」

藤田 「え、何をしたんですか？」

高木 「体の半分だけ整形してきたんだよ」

「え？」

声をあげて頭を抱えて落ち込む田中

モニター・体半分整形女

藤田 「どういうことですかこれ？」

高木 「だから、本当の自分を分かって欲しいから、体の半分嘘をついたって」

「やべー」

高木 「それで「男ども、よく見ろ、お前らが求める私がこれ、本当の私これだ！本当の私を愛せるか！愛せるのか！」って泣きわめいて」

藤田 「そんなコンテストなんですか？」

高木 「そんなコンテストなのかどうかは分からないけどそういうアイデンティティで勝負したい女が現れたんだな」

藤田 「時代進んでんなー」

高木 「で、だ、そんな娘を止めようと実は田中さんも手を打ってた」
藤田 「説得とか？」
高木 「連絡取れないから。ミスIIDに出る女の子は親からの連絡出ないから」
藤田 「そういうもんなんですか」
高木 「田中さんも出場したんだよ」
藤田 「え？ミスIIDに？」
高木 「そう。ミスIIDに」
藤田 「え、おじさんも出れるコンテストなんですか？」
高木 「ミスIIDにはおじさんも出れる」
藤田 「なんだそれー」
高木 「ジェンダーも崩壊してるからな。で審査員の前で、娘をコンテストから落とすってほしいって泣きながら懇願して」
藤田 「えーよくやりましたねー」
高木 「結果ね、田中さんもファイナリストに残ったの」
藤田 「マジっすか？」
高木 「マジマジ。娘も父もミスIIDのファイナリストよ」
藤田 「えー…」

高木 「父の願いとは裏腹にまさかの事態よ。奇行を繰り返す娘を一刻も早く公の場から引きずり下ろしたい、しかし、それとは別に田中さんにある感情が芽生えるんだ」
藤田 「え」
高木 「ミスIIDでグランプリ取りたい」
藤田 「嘘だろ」
藤田 膝を叩く田中
藤田 「だって、おじさんですよ？」
高木 「人間、勝ち取るまでもう一歩ってどこに来ると欲が出るんだよ。おじさんでもな。娘を救うとは違う覚悟で田中さんは自己アピール動画の最終選考へ臨んだ」
藤田 「え、何をしたんですか？」
高木 「赤いスイートピーを歌ったんだよ」
藤田 「赤いスイートピーを歌った？」
藤田 「M・赤いスイートピーーCー」
高木 「自分の永遠のアイドルだった聖子ちゃんになりたくて、ただ、まっすぐな思いで、赤いスイートピーを歌った」

藤田

「それだけ？」

高木

「それだけ。それだけでグランプリだ」

藤田

「えっ？グランプリ？」

高木

「あちらにおられるのが、ミスID2019グランプリ・田中ミツオさんだ」

藤田

「えー！なんでー？」

高木

「アイドルとは？つてもものを考えることに疲れ果てた時代が求めたのかもしれないなあ」

藤田

「すげー」

高木

「自分が獲りたかったミスIDGPを親父が獲る…揉めないわけがない…絶縁だよ…」

藤田

「だから田中さんあんな…」

高木

「いや、それじゃない」

〔M・赤いスイートピーーFO〕

藤田

「え？」

高木

「ミスIDのグランプリがおじさんじゃおかしいだろって世間から叩かれて、結局取り消しになったんだよ。それが悔しくて悔しくて泣いてるんだよ」

藤田

「でも、それは世間が正しいんじゃない？」

高木

「だとしても、家族や世間体を犠牲にしてミスIDにかけた田中さんに対してあまりにも失礼だと思わねえか！？」

発狂しながら飛び降りた田中

藤田

「田中さん！」

〔M・赤いスイートピーーC〕

藤田

「飛び降りた！救急車！」

高木

「田中さん、あんたがグランプリかどうかは分かんねえ、けどどな、あんたはチャレンジャーだよ…」

〔L・暗転〕

〔M・赤いスイートピーーFO〕

ー了ー